

第3回「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」議事概要

○日 時：平成30年3月23日（水）10:00～12:00

○場 所：経済産業省別館11階各省庁共用1107会議室

○出席者：別紙参照

1. 議事概要

○実証実験の結果について

- ・事務局より、議事次第に沿って、実証実験の結果について報告がされた後、それに関する考察について議論がされた。

○委員からの主な意見

【色帯方式】

- ・視認性を上げるためにホーム端の色帯と周囲（ホーム笠石や軌道敷）との輝度比を高くすると、赤・橙色の色覚が無いロービジョン者は、色帯とホーム縁端警告ブロックとの誤認を生じる可能性があることが指摘されている。せっかくお金をかけて整備したものが危険側となることはあってはならない。
- ・一方、色覚がある人には有効との評価が高く、また、色覚が無い人にとっても、一般に敷設されている輝度比が高くない色帯の場合はブロックと誤認する可能性が低く、転落につながる可能性も低いので、そこは評価すべきである。

【縞模様方式】

- ・眼振や目のちらつきが生じるような、相対的に不快感が増す細かい縞模様は避けるべきだが、これは直ちに軌道内転落に直結するものではないと考えられるので、安定的な評価が得られたとの認識である。

【考察】

- ・既に敷設されたもの（既設）とこれから敷設するもの（新設）とでは、分けて考えるべきではないか。既設のものに対しては、今回判明した上記の懸案事項は明確にすべきだが、取組自体を否定するものではない。一方、これから敷設する事業者に対しては、安定的な評価が得られた縞模様方式を選択するようにした方が良いのではないか。
- ・当社は約10年前から転落が多い駅で色帯を進めており、利用者がホーム縁端を歩かない効果は出ているので、今後、縞模様のみを推奨するのは如何かと思う。
- ・当社の列車接触件数は全体的に減っている中で、色帯の設置駅では、他の駅に比べて転落の減少率が高い。色帯については総合的な効果を狙っている面もあり、乗務員目線でドア挟みを防ぐ効果もある。
- ・これまでの色帯は健常者が対象であったが、今回のWGの趣旨は、ロービジョン者も含めて有効な方式を検討する場であり、方策の転換期となるのではないか。
- ・ロービジョン者の個人差が大きく好みもある中、今回の実験結果で一方に絞るのは難しい。
- ・答えは1つではなく、総合的に判断していかなければならない。
- ・ロービジョン者は多種多様であり、被験者を100人や200人にしたところで、結局様々な症例の方がいて同じ結果になると思う。どちらか一方が良いかという話ではなく、長所短所をきちんと把握して、それを踏まえて敷設を進めていくことがよいのではないか。

2. 今後について

今回のWGの議論を踏まえ、報告書を作成する中で、論点を整理する。

以上